

令和6年度 学校評価シート

〈学校経営方針の重点〉

1 確かな学力の向上(知) 2 豊かな人間性の育成(徳) 3 健やかな心と体の育成(体) 4 地域に根ざした学校づくりの推進

※評価 A(高度に達成) B(おおむね達成) C(達成するにはもう一歩) D(ほとんど未達成)

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策		分析結果	改善策	学校関係者評価		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
				評語					
学力の向上	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	小規模特別認定校制度を生かしたきめ細かい指導を徹底し、指導方法の工夫と改善を図る。	生徒のよい点や可能性を見付け、伸ばす指導の工夫を行う。	A	・生徒アンケートでも「先生は自分のよいところを認めてくれている」との生徒の回答が100%であった。 ・少人数のメリットを生かした環境づくりや、生徒と教師の信頼関係が構築できている。	・総合的な学習の時間に探究的な縦割りグループ活動も取り入れ、生徒のよさを引き出す指導を行う。 ・CBの利用機会をより増加させ、個別の学習状況に合う学習環境づくりをさらに推進させる。	A	・さらに推進を！	・生徒のよさを引き出すために、総合的な学習の時間における探究活動をさらに充実させる。 ・生徒個々の学習状況に合う学習環境づくりをさらに推進させるために、一人1台端末やオンライン学習等、ICT機器を活用するとともに、生徒の様子を丁寧に見取り指導に生かす。
			生徒の主体的な学びを促すために、めあて、課題、まとめ、振り返りを適切に設定した授業を行う。	B	・OJT委員会や学力向上委員会を発足させ、教師の授業力向上に取り組むことができた。 ・めあて・課題・まとめ・振り返りの活動はどの授業でも定着しており、教師からの言葉がけでは、思考や学びを促すことが増えている。	・授業ごとの、めあて・課題・まとめ・振り返りの設定は定着したので、単元を通した見通しを生徒がもてるような設定を定着させ、主体的な学びや学習調整力を養う。 ・主体的な学びの評価方法について、さらに研修を重ね、生徒が評価されたことを実感できるような授業プランを心がける。	A	・生徒の動機付けの大きささは分かります。	・生徒の主体的な学びを促すとともに学習調整力を養うために、各授業において、めあて・課題・まとめ・振り返りおよび、単元を通した見通しについて、明確に提示する。 ・生徒の主体的な学びを支援し生徒の意欲を高めるために、適切な評価計画に基づく授業改善推進プランを作成する。
			粘り強く継続して学習する力を育むために、個に応じた指導の工夫を行いながら、基礎的・基本的内容が定着するように繰り返し指導する。	A	・今年度は英語でも少人数学習を展開し、個に応じた指導や個別最適な学びができる授業を設定することができた。個に応じた評価を受けることは、生徒の励みになっている。 ・個に応じた指導の工夫をより進めるため、支援が必要な生徒の情報を共有し、授業改善に生かしている。	・引き続き、個別最適な学びの環境を整える。 ・基礎・基本の定着のため、授業の初めに小テストや振り返りを取り入れたり、定期考査前に学習会を全校で行うことで学びに向かう心を膨らませたり、質問しやすい環境をつくるように働きかける。	A	・生徒本人が目標を決めることで自信に繋がって楽しく学べる様に改善できると思います。 ・さらに推進を！	・生徒の粘り強く継続して学習する力を育むために、生徒自身が目標を設定し、達成するための手立てや計画等を考える場を設ける。 ・基礎・基本の定着のため、授業改善に取り組むとともに、生徒が主体的に学習をする環境がつくれるように、家庭と協力をする。
			個別最適な学びを充実させるために一人1台の端末を活用したり、課題設定に工夫をしたり、オンライン学習を活用したりする。	B	・スタディサプリを全校で活用し、生徒が主体的に最適な学びができる一助となっている。さらに担任や教科担当が活用状況を見とることができるので、生徒に個別の学習状況について関わる事ができている。	・引き続き、ICT機器やオンライン学習の研修を行い、より効果的にICTを使った授業デザインができるようにしていく。 ・課題や宿題の設定に工夫を凝らし、生徒が主体的に学習の目標を設定し、達成感を得られるようにする。	A		・生徒の個別最適な学びを充実させるために、効果的にICT機器を活用した指導方法を実現する。 ・生徒が学習を通して達成感が得られるようにするために、課題設定に工夫を凝らすとともに、生徒が主体的に学習目標を設定し、自分に合った学習方法を見付けられるように支援する。
			協働的な学びを充実させるために、生徒が自分の考えを表現したり、他と比べたりしながら、自分の考えを再構築する場面を設定する。	B	・各教科・単元内で「協働活動」する場面の設定が多く、生徒は主体的に話し合い、他者からの学びを自分の学力につなげることができた生徒もいる。 ・生徒が自己表現する力を伸ばすことで、生徒自身が気づき学び、結果として学力を向上させることにつながっていた。	・道徳、学活、総合、各教科で3～4人での話し合いのシステム・ルールを作り、機会を多く取り入れていく。 ・高度な内容にならずとも、生徒がいつでも自由に意思を述べる場に慣れることで、考えを再構築するレベルの話し合いが生まれると考える。	A		・協働的な学びを充実させるために、全ての活動を通して、「個→集団→個」の流れを尊重し、個々のよさを生かしながら集団と個が成長する環境を構築する。
			生徒の自ら未来を切り拓く力を育むために、総合的な学習の時間において探究活動を推進する。	B	・生徒個人が興味・関心のある事柄について仮説を立て、その検証に向けてあらゆる手段で調査を行い、情報を集めるという探究学習の導入をはじめた。 ・教員サイドの探究に対する共通認識を確立することや、共通理解を進め、効率的に柔軟に生徒の探究に伴走できる体制を構築することについては、まだ課題がある。	・自分が探究したいことを他者へ表明する機会をつくるため、毎月縦割りグループでの共有会を設定する。探究の途中経過や最終報告を他者に向けて行う。相互の発表から得たことを、自身の探究学習にいかし、さらに学びを深める方向に向かわせる。 ・探究の題材や方法を生徒自身が組み立てることで、セルフマネジメント力、プランニング力を向上させる。主体的に学ぶ学力向上と大きくつながる力とさせる。	A		・生徒の自ら未来を切り拓く力を育むために、探究活動の充実を図る。探究の課題設定や課題解決方法は、生徒自身に組み立てさせることで、セルフマネジメント力、プランニング力を向上させる。
			家庭学習を充実させるために、学習相談週間等を活用し、学習方法を適切に示すとともに、家庭に協力を仰ぎ学習習慣の確立を図る。	B	・学習相談週間では、どの教科にも質問ができるように設定し、定期考査の取り組みと合わせて、家庭学習の定着を図っている。 ・定期考査では、学習計画表や結果の振り返りに家庭の協力を仰ぐように設定し、学習習慣の定着に働きかけている。	・学習計画表のやり取りを通じて、家庭に学習習慣の定着への協力を仰ぐ。 ・スマホ/ゲーム/動画/SNSについて、家庭の管理意識を喚起すべく、セーフティ教室や保護者会でネットリテラシーについて触れる機会を設けている。 ・保健指導で「目」や「耳」など健康維持についての啓発活動を行っている。	A	・年々変化するSNS被害やサイバー犯罪から生徒を守るために取り組んでいることが良く見えます。 ・SNS(ネット環境での)事故・事件等が多発するなか、家庭での管理意識がかなり望まれると思う。	・生徒の家庭学習を充実させるために、生徒が主体的に計画を立てた予定を支援することを通じて、家庭に学習習慣の定着への協力を仰ぐ。 ・生徒が家庭学習の時間を確保するために、家庭での管理意識を高めていただくように協力を促したり、セーフティ教室等の啓発活動を推進したりする。
豊かな人間性	互いの人格を尊重した人権教育を推進し、生徒の社会性の育成	いのちを大切にすることの心を教育を推進し、いじめの根絶を目指して、思いやり、認め合い、支え合う指導を充実させる。	いのちを大切にすることの心を教育を充実させるために、現在の課題について広い視野からの報道等を活用したり、様々な体験をさせたりしながら、道徳科の指導の工夫をする。	A	・道徳の授業をはじめ、すべての授業・教育活動で生徒の自尊心や肯定感を高めるような心の教育を充実させられた。 ・がん教育講座では、寛解した経験者をゲストティーチャーとして講演していただき、いのちの大切さを実感させる機会となった。	・生徒全体が、他者への共感や理解が高いので多様性への意識が高い。引き続き、自他を愛する心を育む教育を行う。 ・道徳の教科書を中心としながらも、時事問題や報道等からも教材をつくり、引き続き指導の工夫をしていく。	A		・生徒のいのちを大切にすることの心を育むために、道徳科の授業の充実を図るとともに、生徒が自分事として考えられるような身近な時事問題や報道等からも題材を取り上げる工夫を継続する。
			いじめの未然防止・早期発見・解決を図るために、学校いじめ防止基本法に則り、生徒会の啓発活動を推進するとともに、いじめアンケート等を活用し、生徒の心に寄り添う。	A	・年に4回のアンケートを中心に、毎週定期的にいじめ対策委員会で情報交換を密に行っている。 ・すべての教育活動がいじめ防止/人権尊重に則って行われているかを、教職員も年に2回リフレクションし確認している。	・引き続き、日々の情報交換を緊密に行い、未然防止や早期発見に努める。 ・朝礼での講話や、学活での日々の指導を通して、人権感覚を養う。	A		・生徒のいじめの未然防止・早期発見・解決を図るために、引き続き、生徒の様子を丁寧に見取りながら日々の情報交換を緊密に行うとともに、いじめアンケート等を活用し、生徒の心に寄り添うことで組織的に未然防止や早期発見に努める。
			自他を大切にしてお互いを思いやり、支え合う心を育むために、人権教育を推進するとともに、障害者理解等の体験的な学習を行う。	A	・人権教育のほかに、1年時の介護福祉学習、2年時の聴覚障がい者に学ぶ会、全校で「あすチャレ」においてパラスリートの方とのふれあいがあり、思いやりや支えあう心、他者理解を体験的に学ぶことができた。 ・校舎が古く、バリアフリーではないところが多く、ゲストティーチャーに制限が出てしまうところがある。	・引き続き、体験学習等の機会を活用し、相手の立場になって考えることができるような指導を行う。 ・支援を必要とする人に出会った際に、自分ができていることを考えることができるような指導を行う。 ・毎年、校舎の修繕について青梅市と協議している。	A		・生徒が自他を大切にしてお互いを思いやり、支え合う心を育むために、体験学習や地域講師と触れ合う機会を多く設定し、多様性を認め合い、相手の立場になって考えることができるような指導を継続する。

健康やかな心と体	心身ともに健康でたくましい生徒の育成	心体の健康を増進させるとともに、すべての生徒の居場所づくり、きずなづくりを推進する。	心と体の健康を守る態度を養うために、正しい知識を習得させ、基本的な生活習慣を確立させるとともに、いつでも相談できる環境を整える。	A	・日々の保健指導や、保健体育での学習、保健委員会の自主的な活動が豊かで、啓発活動が行き届いている。 ・スクールカウンセラーを始めとして、支援員や図書館司書、事務室など学校職員が話しかけやすい環境を整えている。	・保健委員会の生徒の呼びかけは、月別にテーマがあり、保健指導の一環として有用な啓発活動になっている。 ・引き続き、生徒への声かけを日常的に行い、話しかけやすい雰囲気为学校全体で作っていく。	A		・生徒の心と体の健康を守る態度を養うために、生徒の主体的な活動として保健委員会から生徒に呼びかけ、啓発活動を継続する。 ・生徒に寄り添い、生徒への声かけを日常的に行い、いつでも話しかけやすい雰囲気を教職員全員で構築する。
			生徒の社会性を育むために、規範意識の醸成、あいさつの励行、礼儀作法の徹底を図る。	A	・全部の授業での好ましい礼儀作法の習慣化をはじめとして、生徒会の自主活動のあいさつ運動や道徳の授業などを通じてほとんどの生徒で達成できている。 ・自律意識が高い集団が形成できている。	・学校でできることを、個人になった時や学校外に出たときにも実践できるような指導を行う。 ・社会の一員としての過ごし方について生徒に考えさせ、規範意識の醸成をはかる。	A		・生徒の社会性を育むために、社会の一員としての自覚を促すとともに、生徒会活動で「生徒のきまり」を見直したり、「よりよい学校生活」について改善策等を検討させたりしながら、生徒が主体的に規範意識を高めるような環境をつくる。
			不登校生徒と家庭の支援を組織的に行うために、生徒に寄り添う指導を継続しながら外部機関と連携をしたり、家庭と子供の支援員を活用したりする。	B	・家庭と子供の支援員によるサポート、登校支援室、教育相談室、子供家庭支援センターと連携しながら、組織的に生徒や家庭とつながり続けることができた。 ・担任や主な担当者が外部と関わるので、全職員が組織的な連携を理解していない面がある。	・全職員が、外部組織の認識を高める。 ・引き続き不登校生徒とのつながりを大切にしながら、個に応じた関り続け、課題改善に向けて取り組みたい。	B		・不登校生徒と家庭の支援を組織的に行うために、全ての生徒の居場所をつくっていくとともに、個々の生徒と家庭が望む支援を継続する。
			生徒の居場所づくり、きずなづくりを推進するために、生徒会活動等において生徒の主体的な活動や行事等を運営することを推奨する。	B	・生徒会主体による委員会活動や交流給食・レク・募金・給食時の企画放送・読書推進イベントなど、活発である。 ・生徒によっては役割が集中してしまうこともあるが、教師が調整しより多くの生徒を活躍させることができた。	・引き続き、生徒が自主的に活動できる場を保証し、形骸化させないよう、生徒たちの意見を尊重しつつ寄り添う。 ・生徒の成長を見守り、完成度よりも生徒たちの達成感や満足度を優先させる運営をしていく。 ・少人数の特性から、多くの生徒が委員会に所属できるので、様々な生徒が活躍しやすい環境を生かしていく。	B	・文科系、体育系にとらわれず、授業終了後のクラブ活動にも生徒の居場所づくりを活用できないだろうか。生徒にとって魅力ある学校づくりを期待している。	・生徒の居場所づくり、きずなづくりを推進するために、生徒が主体的に活動できる場を保証し、生徒の意見を尊重しながら支援を継続する ・生徒にとって魅力ある学校づくりを推進できるように、生徒の視点から学校改善を図る。
地域に根ざす学校	地域に根ざし、地域から信頼される学校の推進	学校を地域に開き、地域の人材を活用しながら教育活動の充実を図る。	地域の学校への関心を高めるために、学校公開や学校だより・学級だより・HP等で教育活動の様子を積極的に公開する。	A	・学校公開を年に4回、道徳地区公開講座・体育大会と学習発表会は一般公開で実施した。地域の福祉施設の利用者もご来校いただいた。 ・学校だよりを毎月発行した。	・学校公開を年に4回、道徳地区公開講座・体育大会と学習発表会は一般公開で実施した。地域の方々にもご来校いただいた。また、マラソン大会では地域から多大な協力と応援をいただいており、感謝している。 ・学年だよりはどの学年も頻回に発行している。学校だよりを毎月発行しており、ホームページの発信も増やしたい。	A	・七中のクラブ活動の報告を文化祭で発表してはどうか。	・地域の学校への関心を高めるために、行事等の学校公開を積極的に行うとともに、地域行事において生徒の活動を紹介する機会を設ける。 ・学校だより、学年だよりは電子配信等のスタイルも導入し、教員の働き方改革やペーパーレス化を図りながらも、地域・保護者とのつながりを大切にする。
			地域とともに、安心安全な学校づくりを推進するために、交通安全教室や成木の特性を生かした森林体験やホタル学習等、地域人材・資源を活用して、特色ある教育活動を推進する。	A	・ゲストティーチャーを招いて、様々な体験的な活動を実施することができた。「成木の山林」「成木川やホタル」「金融」「青梅の河川」など多岐にわたる地域人材を活用した。各分野の専門家に接し話を聞くことができる効果は非常に高い。 ・上級生から、今年度は多様な大人と出逢える機会が多いと実感する声が挙がっている。	・学校の働きかけにより、地域行事に参加する生徒が多くなった。引き続きボランティアなど生徒が地域と関わる機会を広報していく。 ・青梅に関係のある講師を招聘し、講演や授業を行うことで、生徒の興味・関心を高めるとともに、ふるさとである青梅への郷土愛を深めさせる。	A	・地域社会への参加をさらに推進してほしい。 ・第七支会の文化祭へのご協力ありがとうございました。	・地域とともに、安心安全な学校づくりを推進するために、地域行事に積極的に参加したり、ボランティア活動を推奨したりして、生徒と地域のお互いが知り合える関係づくりをする。
その他重点	特別支援教育の推進	生徒一人一人の特性を理解した指導を行う。	・教育相談活動を充実させるとともに、生徒の特性等について共通理解を図る。 ・SCや外部機関と連携し、課題解決を図る。 ・特性に応じた指導方法について研修を行い、指導に生かす。	B	・毎週、スクールカウンセラーによる面談や授業参観・給食訪問により、生徒の見取りやサポートを行っている。 ・特別支援コーディネーターを中心に、都や市の巡回相談を積極的に活用し、学習や生活の様子から指導方法への情報を共有することができた。	・スクールカウンセラーや支援員との連携を継続して行い、教育相談部会での報告と共有や周知を確実に行うことで、教育相談活動や特別支援を推進させる。 ・特別支援教室の巡回指導職員が専門的な指導について情報を提供したり、スーパーバイザーの活用を行いさらなる支援の充実を図る。	A		・スクールカウンセラーや支援員との連携を密にして、組織的に教育相談活動や個に応じた支援を推進させる。 ・特別支援教育について、専門的な視点から研修会を行い、教員の指導力の向上を図る。
	学校における働き方改革の推進	校務改善を図り、生徒と向き合う時間を確保し、教員のライフワークバランスを整える。	・校務支援システムやICT機器等を活用し、校務改善を図る ・SSS等の支援員を活用し、生徒と向き合う時間を確保する。 ・校務を整理し、在校時間を適正にする意識を高めるとともに、定時退勤推奨日を積極的に活用する。	B	・SSSやICT機器の活用により、校務改善が進み、生徒と接する時間や教材研究の時間を増やすことができた。 ・時差通勤を利用する教員と連携し、全体の在校時間を適正に近づけることができた。	・校務改善が少しずつ進み、ワークライフバランスを整えることにつながってきている。 ・時差通勤を利用する教員と分担し、始業前の活動や放課後の活動を割り振ることで、定時退勤を勧めたい。	A	・学校の業務だが必ずしも教師が担う必要のない業務が多くあります。外部委託、地域ボランティア等、法人会社、部活動指導員、事務職員等に任せ、教員はこどもの指導のみ義務にすべき。	・スクールサポートスタッフや家庭と子供の支援員、部活動指導員等と連携し、校務改善をさらに推進させる。 ・校務を整理し、在校時間を適正にする意識を高めさせ、定時退勤する日を教職員が設定をして、主体的にワークライフバランスを整えられるようにする。